

アジアのアパレル 生産新時代を担う ②

●AAP設立7周年シンポジウムから

ベトナム・ラオス・カンボジア編 下

政井一哉 湯峰ソーイング 専務
常川雅通 サンテイ社長
岩井一男 ロックス社長

出席者

——チャイナプラスワンの開拓を進めた結果、生産国の比率にどんな変化があったのか。

政井（ベトナム） 11年と16年を比べると、11年は中国とベトナムが50%ずつだったが、16年は中

直面する管理者不足

国が25%に減少したのに対して、ベトナム比率は75%に高まった。

常川（ラオス） サンテイグル

ープとして11年は中国比率が70%、ベトナムはかなり早くから進出したので25%、ラオスが5%だった。これが16年には中国が50%、ベトナム20%、ラオス15%、インドネシア10%、バングラデシュが5%に変化した。

——今、直面している問題、課題は。

政井 ベトナムは国全体として管理者不足と言われるが、我々にとっても同様で、悩んでいる。第2工場としてはアイテムが多様な

ため、切り替えロスを作らないこと。多能工的な部分が必要になっている。

常川 労働者の定着率が良くない。親の背中を見て子は育つじゃないが、お国柄、親世代はほとんど定職に就いてなかった。このことも関係しているかもしれない。タイに出稼ぎに行く人が多いことも影響している。

岩井（カンボジア） 12年時点で中国が95%、カンボジアは5%に過ぎなかったが、16年度は中国が40%、カンボジアが60%と比率は逆転している。

岩井 かつての内戦の影響で、30〜40代の人材が不足している。そのため中間管理職に向く人材が少ない。この問題にはずっと直面している。

——今後の展望は。

政井 縫製工場は常に生産性と品質を向上させなければならぬ。そしてマーケットが欲する商品を作っていくべき。

常川 ラオスという国をさらに知ることが大事。ラオスの人はチームで仕事することは苦手だが、一人ひとりは手先が器用だ。大きいゾーンを狙うのではなく、中高級ゾーンをやっていくべき。そのためにも、付加価値を表現できるような設備投資を進めたい。

岩井 ASEAN（東南アジア諸国連合）は同質化し、最低賃金もどんどん上がっている。カンボジア以外に進出して同じ、という気持ちでカンボジアで頑張っていくべき。